

別記様式(第4条関係)

会議録

会議の名称	令和5年度第3回加東市部活動あり方検討委員会
開催日時	令和5年12月21日(木) 19時00分から20時35分まで
開催場所	加東市役所2階 201会議室
議長の氏名 (委員長 森田啓之)	
出席及び欠席委員の氏名	
〔出席〕 12名	
森田啓之委員 中原公寿委員 竹内守男委員 山平康弘委員 三村勇委員	
藤本進委員 伊藤賢吾委員 平川真也委員 岸本善仁委員 岸本大介委員	
家本典子委員 岸本孝司委員	
説明のため出席した者の職氏名	
なし	
出席した事務局職員の氏名及びその職名	
こども未来部 参事兼学校教育課長 井上聡 学校教育課 係長 郡龍仁	
議題、会議結果、会議の経過及び資料名	
〔議題〕	
(1) 今後の課題や取組等について	
(2) その他	
〔会議結果〕	
(1) 今後の課題や取組等について	
・資料をもとに、今後の加東市における部活動地域移行の全体スケジュール案について情報共有と協議。	
・地域展開する際のパターンイメージ案をもとに、意見交換。	
(2) その他	
・第4回2月16日(金)に開催予定。	

〔会議の経過〕

1 開会

(事務局)

ただいまから令和5年度第3回加東市部活動あり方検討委員会を開会いたします。
以後の進行を委員長にお願いします。

(委員長)〔挨拶〕

これまで、国や県の動き、そして、市内の部活動の現状について情報共有等をしてきましたが、今回は、加東市の地域展開に向けたスケジュール案について議論します。

事務局から説明をお願いします。

(事務局)

〔資料2〕について提案。

- ・モデル事業の実施案 令和6年度の総体後から
各中学校と義務教育学校で1種目ずつモデル事業への取組
- ・地域展開の拡充案 令和7年度の総体後から
- ・地域展開案(土日) 令和9年度の総体後から
- ・令和6年度の予定 教員や保護者への説明、競技種目による地域展開の形態を検討
- ・令和7年度の予定 モデル事業の成果と課題を検証、拡充種目の検討
- ・現在の中学校1年生→令和7年度3年生 部活動の形が大きく変わらないような形で実施

〔資料3〕について説明。

- ・活動パターン案を例示

パターン①：校区に関係なく、同じ種目の子供たちがどこかに集まって、地域活動として活動するというようなパターン

パターン②：平日に部活動しながら、休日は違う種目の地域活動、或いは同じ種目の地域活動、学校の部活動に続いて、休日については、地域の活動に参加する

パターン③：ある一定の期間にオフシーズンを設け、そのシーズンは地域活動に参加する

パターン④：平日も休日もどちらも地域活動に参加する

(委員)

こういうパターンを組まれて展開していく中で、これは駄目だから、次はこちらにしましょうとなると、子供たちが逆に戸惑うのではないかと思います。

だったらもう始めから、令和11年度に向けた平日も含めた考えの中で進めていく方がいいと思うので、例えばパターン④だったら、初めから地域活動するとか、委託業者に任せるとか、スポーツ施設に委託するとか、学校内で嘱託の人を雇用して、平日から休日まで全部指導するとか、そういうのを一番初めに決めた方がいいと思います。

(委員)

令和6年度総体後からのモデル事業実施とありますが、このモデル事業はどのようなイメージを持った方がいいですか。

(事務局)

まずは土日から地域展開を考えていますので、土日に先生方ではなくて、地域人材の方とか、部活動指導員が入って指導するイメージです。

(委員長)

つまり、仮の案だと思いますが、土曜日、もしくは日曜日での活動というのは、学校の教員がタッチしないという形のものということですよ。

(委員)

令和6年度総体後ということになれば、もうあと半年後の話になります。例えば、公式戦1つとっても土日がメインで、それを開催する主体もそれぞれあります。開催要綱等も、変わらない状況が予想されます。そういったところへの対応は、どんなふうに考えた方がいいのかとは思いますが。

(委員)

例えば、小学校6年間一生懸命柔道して、中学校で部活動がないからサッカーして、また高校に入って柔道やる子もいる。やりたい種目がはっきりしている子ばかりなら対応しやすいし、土日は他の文化系をやりたいというように、ある程度選択肢を広げていかななくてはならないと思います。

あくまでも実施案ですので、その時の6年度の流れを見てみたらいいと思います。

(委員長)

学校の先生の異動や子どもの数で部活が左右されないように考えようという趣旨なので、他市へ求めていってしまうということが起こらないように、市で環境を整えられないかということも含まれると思います。

そういう意味では、部活動の今ある種目にとらわれないというのは、何らかの形で設定したり提供したりしていく必要があると思います。

全部の条件がそろって状況を見てから取り組むのではなく、先生が苦しんでいる種目でかつ個人種目、そして地域で受け入れてくれそうなものを、学校と相談しながら種目を決めましょうということですので、本当に種目は案だと思ってください。

まずは取り組みながら、出てきた課題を検証して広げていき、実践例として出さないと、大人の意識も子供の意識も変わりません。

県内でも、完全にすべてのものを学校から出しますと宣言した自治体が、今もうすでに3つほどあります。

令和8年度に向けて、地域の資源をもう1回掘り起こす。できなかったときは、学校部活動と同じことは無理だと具体的に言わざるをえないし、一方では準備が丁寧に整ってからやっというところと人間は先送りするので、最後の形態はこうだと、そこに向けて、少なくともこんな形でやっという議論をした方がいいと思います。意外と、先進的にやっているところでは、指導者が変わることに、大人よりも子供はあんまり抵抗ないですよ。

学校の先生と地域の方は違う、どっちがいい悪いではなくて、それぞれの良さを含めて、どう考えていくかというところで遠慮のない議論をいただけたらと思います。

(委員)

やはり、実施種目も大体スポーツでまとまっていますから、文化の方もBパターンみたいな感じで最終的なゴールに向かって考えていった方が取り組んだらまとめやすいと思います。まずこの案で進んでいただいて、どうしても課題が出てくると思います。スポーツが苦手な場合の受け皿に、それこそ囲碁、将棋、ダンスとか、そういうハイブリッドな部活動は、やっぱりとても斬新で面白いです。

今までにとらわれない地域活動というのが、何かキーワードになりそうな気がします。ちょっとワクワクを見せられるような、地域展開のイメージをしてもらった方が、保護者も子供たちも、何か期待に溢れるような活動になるような気持ちも持ちつつ、進めていけると良いと思います。

(委員)

先ほど4パターン出されて、代表的な案ということですよ。

地域移行に関する実践的研究事例集を参考にして4つ選んだのか、それとも、例えば政府とかが勧める4つに選ばれたのか。それと、モデル地区を提案した理由を聞きたいです。

(事務局)

こちらのパターン4つは、その事例集を参考にしたり、加東市内の中でどんな形ができるかと考えたりしました。

例えば、実際、今の段階でも合同チームでチームを組んでいる学校もありますので、そういった中で、加東市の子供たちを想像し、どんなパターンが組めるかという例を4つ挙げさせていただきました。

もちろんこれ以外のパターンも考えられます。それから実施種目案については、例えば、これまでから地域の活動として安定してされていたような種目、現在も続いている種目ということと、それから、現在、部活動指導員として、地域人材が平日も土日も含めて入っていただいている部活を、案として考えています。

(委員)

実際、今、中学校で地域の方や外部の指導者が入られているところがやりやすいですよ。先ほどの4パターンは、それぞれメリット・デメリットを考えていかないといけないと思います。

(委員長)

最終的にどうするかということとも絡むんですが、例えばパターン②は、平日はまだ部活動が残っているという前提での話ですね。パターン③もそうですね。

シーズンオン・オフがちょっとわかりにくい部分がありますが、学校部活動があって、そしてそのオフのところに地域活動という取組ですね。

他のパターンも移行期の部分と両方ミックスしてしまっているところが、わかりづらいのかもしれないですね。

最終的に加東市としてどんな姿をイメージするのかというところが、もう少し具体的にわかりやすく書いたほうがいいと思います。ここに例えば、先生方は、地域の大人はどう関わるかということも入ってくると、もう少しわかりやすいです。

学校の先生方が心配している部分でもあるんですが、基本的に6年度からできることをモデルとして取りかかっていく必要があると思うんですけど、現時点で配置されている部活動指導員の配置も、もしかしたら変わる可能性があるのかもしれないし、その辺りは慎重に考えたほうがいいかと思いますが。

(委員)

平日ですと、スポーツ21の活動は、例えば19時から21時の夜間になるんですね。土日か個人かみたいな形なので、中学生が関わるとなると、夜の時間からというのは難しいのかと思います。土日と平日を分けているのは理解できます。休日の地域活動に関わってもらおうというのは、まだ可能性はあると思うんですけども、実際ちょっと、平日の活動というのはすごく大変だなと思います。

例えば、平日の活動となったときに、仕事を終わられたシニアの方が指導となったときに、経験はあるけど資格はないので、今後、何らかの資格がある人という話になるでしょうから、資格がなくても大丈夫とかある程度はつきりしないと、人も集められないのではないのでしょうか。

(委員長)

ちなみに、各市町で基本的には公認のスポーツ指導者資格とかを取っていることが望ましいですが、今は緊急事態でボランティアでやったださっている方もいます。

市として責任を持って研修を受けてもらいながら、独自の認定のようなものをして進めていくというところも出ています。

ただ、資格でいくと、最初からハードルが上がって誰も申し出なくなってくる。

当然、市としても指導者研修会などを考えていく必要は絶対にあると思います。保険のように、指導者さんを守るような制度も作らなければならないと思います。

(委員)

来年の総体後からモデル事業実施ということで、現在の案は個人競技が多いので、団体競技も1つ入れてもいいのではないかと思います。

団体競技になるとどうしても、戦術とか指導者とか、平日は先生が教えて、土日は地域の方が教えるとなるので。

(委員)

教師は、平日と土日と部活動を持っているので、土日は地域の方とか部活指導員の方が見ていただき、平日も見ていただけるなら見ていただくという感じで、ちょっとずつ移行していくというイメージでした。

実際には、平日見ていただける方、その時間に空いている方がいないといけない。

教えていただく方も、見つけないといけないので、移行したらしたで、今まで練習試合等で生徒の中で問題があったときは、どこが責任持って話さないといけないのかとか、いろんなことが、まだ未確定の状態なので、やはり、まずはモデル事業でやってみて、少しずつ移行に向けて、話し合いとか実際にモデルとしてやっている活動で問題が起こったことを、みんなで共有して話をしていかないと、なかなか難しいと思います。

(委員)

ゴールイメージをはっきり示してから、それに向かって、このイメージ図のような感じで移行していけたらと思います。

やはり難しいのは人材の確保だと思うので、それを一番考えながら、種目を選定する必要があると思います。

ある程度、筋道を立てて、それに沿っていかないと、部活動ごとでパターンが変わったりするのも、学校の先生方からすると何か違和感を覚えたりもすると思うので、いろんな形があっていいとは思いますが、ある程度パターンを決めた方が、先生方はわかりやすいと思います。

(委員)

1点目は、やはり指導者がいるのかということところです。現在、部活動指導員が来てくださっていますが、顧問も自分が指導できないから、自ら地域でされてるところに足を運んで依頼したという話を聞きました。

実際、すべての部活において、来てくださる方がいるのかどうかということが検討ですね。実施は早めにしたほうがいいですけど、やはり、集団のチームに関しては、平日こつこつ練習をして、コミュニケーションを取っているからこそ、試合や発表会でできる部分もあるので、いろんなパターンになって、参加の仕方がまちまちになったり、指導する人たちのモチベーションとか、子どもたち自身が何か歯がゆい気持ちになったりするのであるのかと思います。

2点目は、オフシーズンをつくるということですが、オフシーズンがある部活もあればない部活もあると思います。この設定が難しいと思いますが、パターン①やパターン②は本当に、わかりやすいです。

(事務局)

種目、また人数によって、いろんな形があって、その中でできるパターンはどれかと考えました。これから先、子供たちの数が減っていく中で、合同チーム等も増えている、地域の方と一緒にあってということで、例えば、学校の枠を取り払って1つの地域活動として参加するという形も必要になるのではないかという思いもありました。

それから、移行期に関しては、いろいろ混乱を生じる中でも、いろんなパターンを考えていけないといけないということで、まずは案として考えてみました。

(委員長)

パターン①を見ていただきたいのですが、例えば、校区の枠に関係なくとあります。おそらくこのようなパターンもあると思います。

全体的にその種目自体が人数が少なく、オール加東で1つのもの、どこでやるかはちょっと置いて、少年団のところも含めて3中学校でいけそうなものもあるかもしれないというのがまず1つですね。

エリアをどんなふうにして設定したら子供たちにいいのか、今後やはり種目によっても変わってくると思います。そのあたりと、先ほどから出た指導者の確保について、学校の顧問の先生が一生懸命、自分の繋がりとかを何とか模索してという形は避けるべきだと思います。

持続可能性ということも考えると、そういうのをまさに把握するべく、行政にも期待をしたいし、ここにお集まりの方々以外でも、いろんな地域での動きを把握されていると思いますが、どんなイメージをお持ちでしょうか。

(委員)

今まで学校教育の方での活動が、生涯学習へ移行する形かと思っていて、受け皿となるのなら生涯学習課とは思いますが。

でも、実際のところ受け皿というと、今、スケジュールを上げていただいたのですが、この狭間にいる生徒にとったら、時期によって全然その形が変わるので、実際のところ、地域展開するのであれば、パターン④みたいな部活動無しという動きで移行する方が良いと思います。

ただそうしたときに、生涯学習課ではグラウンドや体育館を管理しています。活動の場所が、市民の方が利用される場所を利用するという形になると、実際キャパも厳しいと感じます。指導者のこともありますが、活動する場所をやっぱり考えていけないといけないという印象です。学校教育と協力しながら地域の方と協力していかないと難しいと思います。

(委員)

進める事務局のようなものを、市役所に設置するのか、それとも法人を立ち上げるのか、またそのスポーツの施設管理とかあるところに委託するのか、どこが主になっていくのかというのを決めると、そこが主導権を握って動けるのではないのでしょうか。

例えば指導員にしても、例えば、スポーツを指導できますかという大きな枠で募集をかけるとしたら、サッカーの指導ができますよという人がくるかもしれないし、新しい違うスポーツなら教えられますよという人も出てくるかもしれない。

だから、主導権を握るところをまず決めたら、ずっと流れていくのではないかと私は思います。委託先に任せれば、新しいスポーツや、全国的に知り合いも多いだろうから、有名な選手を呼んでこられるかもしれない、そういうのも可能性としてはあると思います。

先生方にしても僕らにしても素人なので、そういう専門的なところを使った方がス

ムーズに動くんじゃないかと思います。

(委員長)

パターン①でいけば、地域活動をマネジメントしたり、コーディネートしたり、マッチングしたりする部署、文化スポーツコミッションみたいな部門を作って、新たに設置するところもあります。

あるいは、当面は教育委員会なり生涯学習課が窓口になって、その差配をしますというところはあるし、例えば、指定管理を受けている業者があるとすれば、そこにマネジメントを任せるといったところもあります。

やっぱり、このことを専門に考える人材を雇う必要があるかと思います。

もう1点は、学校の先生方にも聞きたい部分なんですが、平日は今まで通り部活動をやって、休日は地域の人で学校の先生はノータッチでというスタイルを、どのようなとらえをされているのか。

希望する人が、先生ではない形で兼職兼業するという形です。だから、仮に学校の先生に見えても学校の先生じゃない位置付けで、土日はやっている。

でも、平日は今まで通り残すのかどうかというところをはっきりしといたら、議論が、進みやすいのではないかと思います。

(委員)

1つは、平日は誰々、休日は誰々という形が、ある意味中途半端だと思います。

子供は、すぐに慣れていく子もあるし、そうでない子もいるとすれば、どちらの言うことを指導者として、支持していくのかというところで混乱が生じる場合もあるだろうと思います。

それから、平日に積み上げてきて、休日にその成果を試しながら、また次の週、その課題を試していくという、その繰り返しを部活はやっている中で、その繋がりがうまくできるかなということと考えたら、平日も休日も、学校から切り離してしまうのが一番わかりやすいのかなと思います。

ただ一方で、今、部活動は学校の教育活動の一環という位置付けがあるとするならば、やはり教育活動の一環である以上、我々はその教育活動として、部活をやっているのです、平日、教育活動として指導していくのが、我々の職務であるということであれば、なかなかそうもいかないと思います。

(委員)

もう向かっていかなければならないというのは、この委員会を立ち上げた時点で決まっていますし、いろんな文化活動、運動活動、これはもう先には、我々地域で見えないといけなくなるんですけど、はっきり話をしていけないといけません。

やはり、次、どれだけ我々の団体の若い世代の人が協力してくれるか、我々委員がああでもないこうでもないと言っても、みんなに力を貸してもらわないと多分進まないと思います。

先には補償問題もついてくることだし、それだけ、真剣に地域のおっちゃん、おばちゃんが、子供らのために、何人手挙げてくれるか。

(委員)

いずれにしてもなんですけど、部活動の意義というか、部活動の目的を、教職員も保護者も地域も、生徒自身も、やっぱり理解して進めていけないといけません。

だから、1週間やったその成果と課題を見つけ出すためのものとしての位置付けで土日や試合のことを言っているのですが、一方で、勝つことや強くなることを期待して、強くできない指導者は駄目というような風潮や、練習の内容がどうのこうと言ったり、

そちら側に部活動の主眼がいつてしまうと、平日と土日の連携がうまくいかないのではないかと考えています。

だから、部活動の目的だけでいけば、平日である意味完結するものでもあるかなと考えています。

だからそこを学校として、理解を広めていくことが必要かなと思います。

(委員長)

部活動でのいろんな経験があり、教育的に意義があると思って関わり、育てられたのですが、多くの部分っていうのはやはり、平日の成果を、土日という非日常的な場面で発揮するっていうところです。これは文化活動でもそうです。

そういう部活動というものを、学校としてこれから残すのかどうかは、学校教育として絶対考えるべきだと思います。

一方では、これ前提は教員の勤務時間の範囲の中でだと思えますが、その意義を具体化できる活動を残すのか。国も言っていますが、あと数年後には、学校部活動はやっているところもあるし、やっていないところもある。加東市として、学校部活動をどう考えるのかというのは、先生方の意見も聞きながら判断した上で、地域にいかにつくるのかというところは、生涯学習課と学校教育課がタッグを組んでやっていく必要があると思います。

それをやっぱり考える上で、先ほど委員が言われた点、イメージをもっと具体的にしていって窓口とか団体とか、あるいは人をどう位置付けて作っていくかということだと思います。

あと、先ほども人材確保とか場所の話とかもありましたが、地域で活動されてる方々の状況を、ここにお集まりの方がすべて把握されているわけでもないの、関係する候補となりうるところに、ヒアリングしたり、アンケートしたりする必要があると、事務局としては考えているようです。

こんなやり方したらもうちょっと積極的に人が手を挙げてくれるのではとか、こんな聞き方していく必要があるのではないかなど、ありますでしょうか。

学校の先生方の中にも、休日にその種目の伝道者として関わってくださる方もおられると思うので、お聞きする必要があると思いますが、何かございますか。

どんなふうにしたら、地域の人にも興味を持ってもらって、候補となる団体や人が、把握できていくかといったところについて、何かご意見がありますか。

(委員)

私が考えられるのは、やはりつながりだと思います。自分が担当する種目の勉強をするために、例えば社会人のチームに入れてもらったりしているので、そういうところでお願ひするしか思いつきません。あとは、やはりお金が支払われたら、もっと集まるのではないかなと思います。教員は、ほぼボランティアなので、お金が少しもらえるのなら、自分の時間を犠牲にしても、もっと頑張ろうと思う人もいます。

(委員長)

そういう意味では、先生方が持っているコネクションを、先生方から把握して、そこに行政としてアプローチするような、また、地域の方が把握してる部分もあるかと思っていますので、公で把握しているものと個人が把握しているものとを全体的にまとめて、そしてアプローチをするのが1点かなと思います。

それと、他市では、条件が合えば指導しますと答えられる先生はいるので、地域の人もそうだと思いますが、その条件がわからなければいけないと思います。

自分の学校じゃなくてもとか、土日のどちらかに1人ではなくて複数のメンバーで指

導体制を組んで、好きな種目をやれるとしたら、何か関わってくれる可能性がありますとか、先生の中の可能性を探ると見えてきます。

(委員)

関係者にも知らせていますので、方向性を伝えていけば理解してくれると思います。

(委員長)

保護者への説明ももちろん大事ですが、やはり、地域の方とか関係の方々に、これだけのすごい状況だということを、広報も含めて周知をして、その機運を作らないといけないと思います。そしたらこんな協力できるかもしれないということが出てきます。

(委員)

我々職人は残業すれば残業手当が出ますが、教員公務員は微々たるものしかない。

先ほど委員が言われたように、月曜日から金曜日まで部活を教えて、それを土日も指導する。親は、ついうちの子下手くそだと言うけど、子供は一生懸命やっているの、親が監督やコーチになったらいけないと思う。親は応援団長で、指導者ではない。

働き方改革イコールやっぱり要るもんは要るので、出してあげたら良いと思います。

(委員長)

まとめになるかわかりませんが、今のお話なんかはどんな文化スポーツ活動を中学生とか小学生時代に、大人として提供できるかというところの共通理解を、保護者を含めて、研修とかも含めてやっぱり考えていく必要があると思います。

今回、スケジュールが一応出てきたんですが、今出た意見を含めて、もう少しブラッシュアップしていただいて、皆さんがどれが一番ベストか、ベターかということを加東市として考えるための資料づくりをぜひお願いしたいと思います。

(委員)

先生方が、もし仮に、学校以外で、土日に教育者じゃなしに指導者として参加されると、報酬をもらうことは可能なんですか。

(事務局)

兼職兼業で部活動指導員として入る場合はもらえます。

地域の1人として、指導するというので、報酬はもらえます。

(委員長)

兼職兼業はもう市町でも、教育長が、学校長が許可出したらいけるんですが、働き方も含めて、会社員もそうですけどお金をもらうということは、やはりちゃんと本分のところに影響がないか監督しないといけないので、その時間がプラスアルファどれぐらいかというのは、やっぱり慎重に考えねばならないと思います。土日ずっとフルに出て、本分の方へ悪影響が出ないように。

では事務局に進行をお返しします。

(事務局)

閉会にあたりまして副委員長からご挨拶いただきます。

(副委員長)〔閉会挨拶〕

(事務局)

以上を持ちまして、第3回加東市部活動あり方検討委員会を終了します。

遅い時間までありがとうございました。

令和6年2月16日